

平成30年度第1回久留米市地域福祉計画推進協議会議事要旨

開催要領

- 1 開催日時 平成30年7月2日(月) 15時30分～17時10分
- 2 会場 久留米市総合福祉センター(2階大会議室)
- 3 出席者 委員21名(綾部委員、岡委員、豊福委員、高木委員、坂井(弘)委員、
本山委員、江上委員、城戸委員、高田委員、湯地委員、
坂井(恵)委員、古賀委員、津野委員、藤野委員、村井委
員、藤田委員、森山委員、阪本委員、濱崎委員、窪田委
員、内藤委員)
- 4 欠席者 委員1名(郷原委員)
- 5 傍聴者 なし

次第及び議事要旨

- 1 開会
- 2 委員紹介
- 3 報告事項
(1) 平成29年度第2回協議会議事要旨
- 4 協議事項
(1) 部会の機能、委員構成について

【主な質疑応答】

- 委員：委員の意見だけでは不十分な分野・領域への対応はどのように行うのか。
事務局：必要に応じて委員の見直しを行うとともに、ワークショップやヒアリング等で意見を聴取したい。
- 委員：支え合い推進部会では、住民主体の支え合いの取組みとして、NPOの設立や有償ボランティア等についても議論するのか。
事務局：議論になることもあると思う。

【主な意見】

- 人権問題を見て分かるとおおり、人の意識を変えるには時間がかかる。住民に危機感はなく、一刻も早く支え合いの意識の醸成に取りかかるべきである。
- 行政と福祉の連携は重要である。相手を尊重していることが相手に伝わるのが大切であり、みんなが心を開き、ひとつになれる場の企画をお願いしたい。
- 農業や介護の分野等で外国人の実習生や働き手が増えていく中で、外国人との共生についても検討する必要がある。
- サービス利用の増加に伴い、地域とのつながりが薄くなっている。障害者等が地域行事等に参加しやすくなる工夫も必要ではないか。

(2) 今後の進め方について

【主な意見】

- ワークショップ、ヒアリングは、本人が本音の意見を言える手法で実施して欲しい。
- ワークショップは様々な立場の人が参加し、意見を出せる場にするのが重要である。
- 例えば、児童虐待に関する専門的な知識があれば、児童虐待が疑われる場に遭遇した時に適切な対応ができる。適切に対応できる知識を広めていく必要もある。
- 「我が事」「丸ごと」の地域づくりに対しては、「できる訳がない」という否定的な意識が働く。現状分析を行い、課題に対する改善策を検討し、否定的な動きには委員の意見を加えて肯定的な動きに変化させることで課題解決を図りたい。

5 その他

- 協議会以外に委員と事務局が情報交換できる仕組みの構築をお願いしたい。
- 次回協議会は、平成30年10月16日（火）開催予定。

6 閉会